第３章

学校全体で取り組みましょう

〈 実践編　２ 〉

■　キャリア教育の視点を生かして学校全体で取り組む

小学校において、キャリア教育の視点で教育課程を見直すための考え方を示しました。

キャリア教育の推進や計画立案など、学校全体としての取り組みについて考える際の参考にしてください。

Q8　学校全体での取組にしていくためには、どのようにすればよいのですか？

A８　**学校全体で取り組むという方針を明確にし、教職員が、「全体で目指すことは、自分が目指す（実現させたい）ことである」という意識をもって実践できるよう、校内体制を整備します。**

■　一人一人の教師が自らの力を高め、教育効果をあげるためには、学校が組織体として力を発揮する必要があります。

■　「キャリア教育はゼロからのスタートではない」「これまでに取り組んできたことを、児童一人一人のキャリア発達を促すという視点で見直すことで実践できる」という共通の認識に立つことが重要です。

組織的に取り組むポイント

Step 1　**自校の現状把握やビジョンの構想をテーマに、校内研修やミーティングを行って、キャリア教育についての理解を深める。**

Step 2　**学校の実情に合わせて推進チームを編成し、自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にする。**

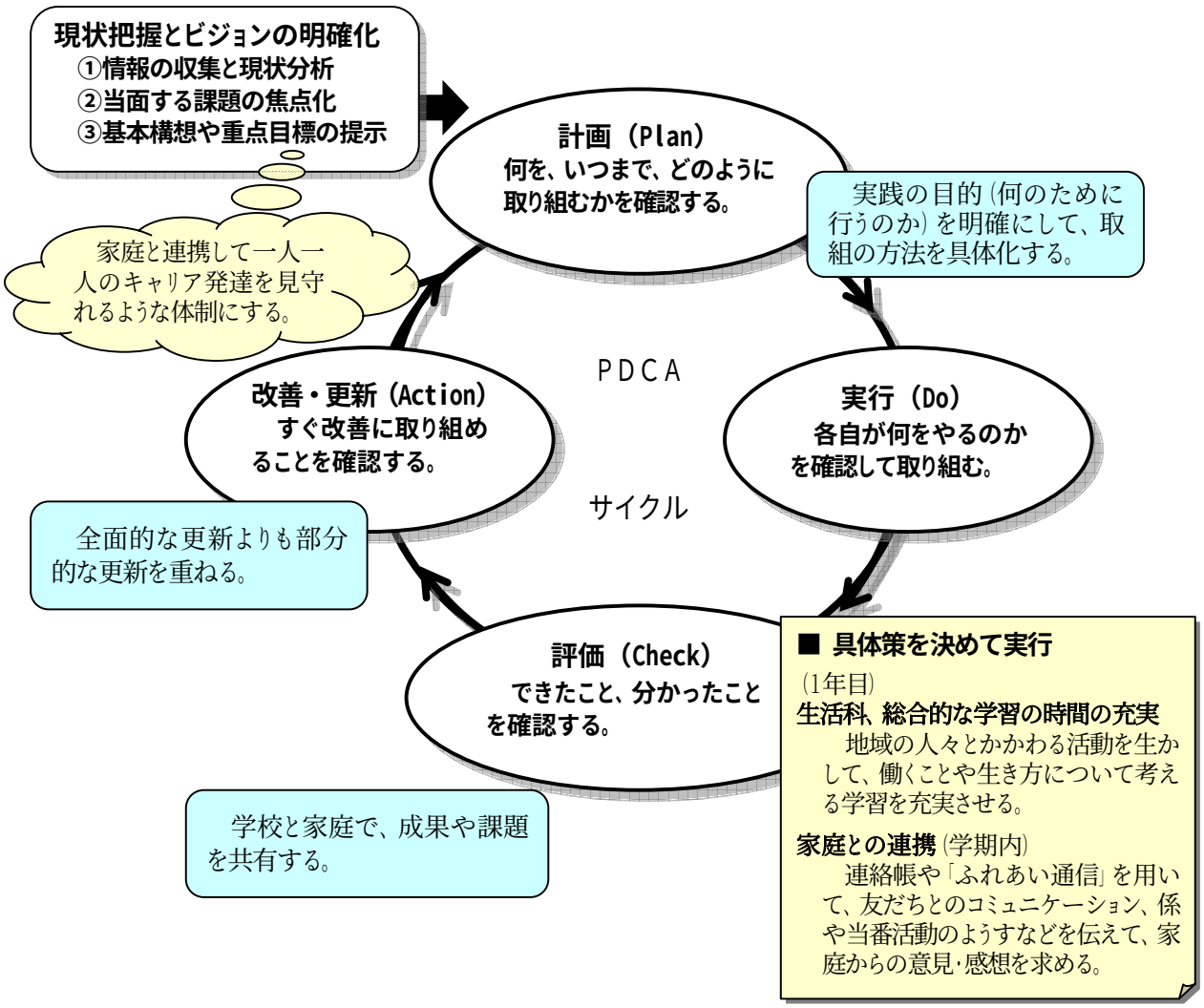
Step 3　**学校全体で取り組むための仕組みが機能するよう、学校の実情に合わせて、推進スケジュールや校内体制を整備する。**

解説8　キャリア教育の組織的な推進

地域の人々とかかわる体験的な活動や生き方に関する指導など、すでに学校はキャリア教育に関わる実践やノウハウをたくさんもっています。また、小学校は中学校や高校よりも保護者や地域の人々にとって身近な存在であり、連携や協力が得やすいと考えられます。

キャリア教育を組織的に推進するためには、このような人的、知的財産や強みを最大限に生かす、仕組みづくりがポイントとなります。いわゆるPDCAサイクルを生かした実践・評価を導入することが有効であると考えられます。

イメージ図　PDCAサイクルを生かした実践・評価



Step 1　**自校の現状把握やビジョンの構想をテーマに、校内研修やミーティングを行って、キャリア教育についての理解を深める。**

PDCA の一連のサイクルを機能させるためには、その大前提として校内コンセンサスの醸成が欠かせません。
- **効率的なミーティングを心がけましょう。**
- **新しいことを始めるという感覚は捨て、自分と仲間の実践を共有するという意識をもちましょう。**

ポイント　**自分だけでがんばるよりも、連携や協働体制を作り上げると長続きします。**

Step 2　**学校の実情に合わせて推進チームを編成し、自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にする。**

○　現状把握（Research）
現状や内外環境を分析して、現在自分たちがもっている教育的な財産やノウハウを最大限に生かそうとすることが大切です。リサーチが課題の指摘に終わらないようにします。

（Ａ小学校の例）

キーワード：
- **○「学ぶこと」と「働くこと」、「生きること」とのつながり**
- **○家庭・地域との連携**
- **○経験の積み重ね**
- **○指導と評価の積み重ね**

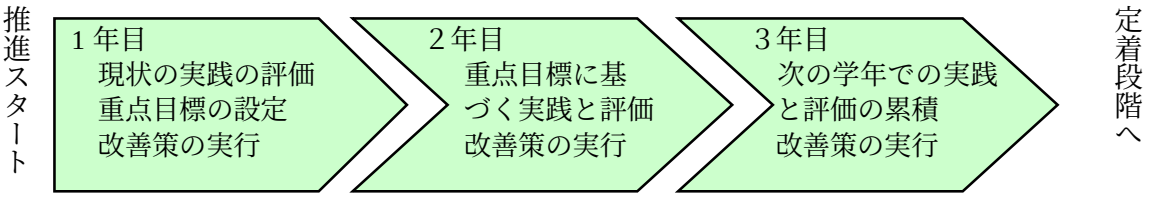
地域の信頼と協力

家庭の信頼と協力

○　基本構想や重点目標の策定

自校のキャリア教育推進のビジョンを明確にして、取組の期間、重点目標や進め方を明らかにします。

（取組の期間・重点目標設定及び推進の考え方の例〔３か年〕）



（重点目標設定の考え方の例）

①　教科や領域のねらいを再確認する視点

〔例〕
- ○　発展教材の指導法を工夫して、学びとその応用の世界が、小・中・高、実社会へと広がっていくことに気付かせる。
- ○　特別活動は、話し合いによる調整と、協力して活動することを重視する。

＋

②　子どもの成長を的確にとらえる視点

- ○　生活科、総合的な学習の時間では、児童が、伝え合う力やコミュニケーション能力をできるだけ駆使して活動に取り組むように、指導と評価の改善に取り組む。

＋

③　専門性の向上･学校経営の視点

- ○　教育活動を充実させるために校内研修や教職員の話し合いの機能を高めたい。
- ○　先進的・先導的な研究開発に取り組み、魅力ある授業を創り上げたい。
- ○　家庭、地域社会に、本校の教育内容のよさが分かるように説明したい。

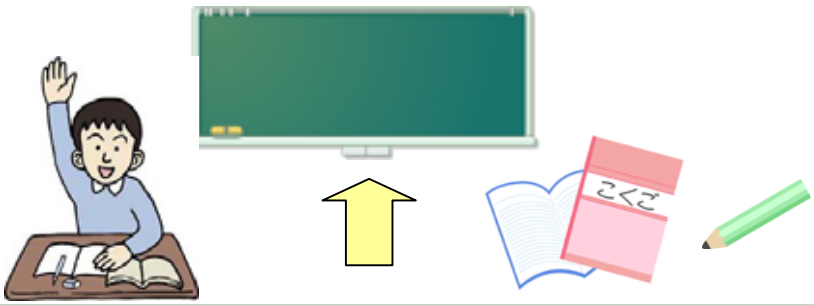
★　ここがポイント！

キャリア教育を導入する段階では、人間関係形成能力の育成に着目することが重要です。この例では、実践的なコミュニケーション能力を育成するために、対話や話し合いの機会を積極的に設けて指導に当たるという方針を明確にしています。さらに、教育活動の内容や指導の充実させるために校内研修の機能を高めることや、学校の取組を保護者や地域住民に効果的に伝えることなど、重点を置いて取り組もうとすることを提案しています。

キャリア教育推進の基本構想〔例〕

目指す子ども像

夢や目標をもち、人とかかわりながら学び、自分を拓く子
自立意識の向上、社会性の育成



≪社会の中で生きる力の育成≫

将来や生き方について考え、主体的に選択･決定をするための意欲や能力･態度を育てる。

“仲間と学び合い、自他のよさに気付く”

友達とともに学ぶ機会や活動を充実させ、自分自身や生活への気付きを促す。

“地域の中で現実社会にふれる”

様々な体験を通して、地域社会の「ひと」、「もの」、「情報」にふれるようにする。

人と学ぶ力を高める
- 基礎基本の確認と活用
- 「聞く力」「説明する力」の育成
- 学習評価の工夫改善

人と関わる力を高める
- あいさつ、対話の重視
- 学年間、地域との交流
- 読書活動の充実
- 「言葉と心」の資料作成

人と行動する力を高める
- 体験的活動の重視
- 他者と関わる体験と自信の積み重ね
- マナー規範意識の向上

◇　指導の基盤づくりに取り組む

■　授業公開や授業研究会を行って、授業力･指導力を向上させる。

■　学校評価によって、教育活動の成果を明らかにして、わかりやすく家庭や地域に伝える。

■　具体的な目標を設定して、着実に成果を上げられる効率的な学校経営に取り組む。

Step 3　**学校全体で取り組むための仕組みが機能するよう、学校の実情に合わせて、推進スケジュールや校内体制を整備する。**

推進の期間を決めて見通しをもって実践します。その上で、今年度取り組むべきこと、今学期取り組むべきことなど、スモールステップを重ねて推進していきます。

（キャリア教育推進の３か年計画の１年目の展開例）

【推進のための指導上の努力点（具体策）】
生活科、総合的な学習の時間、特別活動において、他者とかかわる活動の成果を明らかにする。（一人一人のコミュニケーション能力の発達に着目）

公 表

校長だけでなく、学年主任や学級担任からも具体的な取組と関連付けて保護者に説明する。

年度始め

実 践

① 学習と生活に関するアンケート（児童用）

5月

改善策・向上策の実践

【学校評価委員会のまとめ】
・ 低学年では、友だちや上級生に、あいさつ、話をするのが苦手という児童が３割を超えています。
・ 高学年では、地域の方に、あいさつ、話をするのが苦手という児童が4割を超えています。

公表①
改善策・向上策
教師、上級生から声をかけるようにします。

6月

② 学校評価票（保護者用）

今できることを各担当で明らかにする。（各校務分掌）

【学校評価委員会のまとめ】
家庭での会話について、7割近くのご家庭が、よく会話をしている、3割のご家庭は、どちらかというと会話が少ないと回答されています。
【家庭へのメッセージ】
学校からの連絡帳を話題にしてお子さんと話してみませんか。

公表②
改善策・向上策
学校での対話（教師・友だち）を重視し、授業での話し合いや日常的な対話を充実させます。

7月

家庭での実践を支援する。（学年、担任）

評価結果から導ける提言も盛り込む。（学校評価委員会）

集　計

8月

③ 学校評価集計シート

【各校務分掌で検討した改善策・向上策】
・学級活動のほか、学習指導部と各学年が連携して、生活科や総合的な学習の時間などにおいて、「伝え合う力の育成」の視点を生かして授業や活動を展開します。
・児童指導と学校図書館の係が連携して「言葉と心」に関する資料を作成します。
【学校評価委員会の取組】
12月に、再度、「学習と生活に関するアンケート」を実施し、成果を明らかにします。

公表③

計画の修正

改善策・向上策の実践

9月

目標達成をみる時期を確認する。（全教職員）

年度末

★ ここがポイント！
- 学校評価システムと関連付けて、実践と評価の流れをつくります。
- 小さなことに取り組んでいるだけでは成果が出ないように思いがちですが、学校と家庭の双方の取組について理解し、成果を確認していくことで、実践の手応えが実感できるようになります。

Q9　キャリア教育の計画を作成する場合、どのように立案すればよいのですか？

Ａ９　**各学校では、各教科の指導計画をはじめ様々な計画が作成されています。そうした計画や実践をキャリア教育の視点で見直し、内容や方法について検討したり学年間の調整を図ったりして、学校全体としての取組が分かるようにします。**

■ 学校の実情に合わせた無理のない方法で進めるようにします。

■ ある教科や領域に絞って整理することから始め実践しながら教育活動全体に拡大していくという方法も含め、柔軟に考えるとよいでしょう。

計画立案のためのポイント

- 各学校で定めた目標・内容（育てる力）とキャリア教育で求めている力（例えば「4能力領域」）との関連を整理する。
- キャリア教育で求められる力が児童にどの程度身に付いているか、現在の児童の実態を把握する。
- 発達段階や児童の実態に基づいて、キャリア教育の視点を加味しながら、各学年の目標や活動内容、指導について見直す（検討する）。
- 他の教育活動（教科、道徳、特別活動等）との関連や学年間のつながりについて検討し、重複または不足している箇所を明らかにする。
- 6年間一貫した教育課程として、効果的に教育活動が行えるよう、学校の全体計画を見直す（構想・作成する）。

解説9　　キャリア教育の計画を立案する

学校では、個々の学級や学年を超え、全体として一貫性のある教育を実施する必要があります。計画を立てる場合には、まず、学校としてどのような方向を目指しているのかを確認します。その上で、教科や領域等で重点を置いたり関連付けたりすると効果的であると思われる内容を洗い出し、学年間の接続や系統性を考慮して計画に位置付けるなどして、６年間一貫した教育課程であることが明確になるようにしていきます。

キャリア教育の計画を立案する手順の例

○　キャリア教育担当（教務主任や研究主任など）が、キャリア教育の基本的な考え方を説明し、自校における取組の方針（進め方・計画の構想）を提案する。

○　教科・領域等の部会において、各教育活動の特質と学校の実態を踏まえて、キャリア教育で育成を目指す能力・態度と各教科・領域等との関連について話し合う。

○　学年会の中で、教科・領域等のねらいや内容を確認し、キャリア教育と関連の深い内容を洗い出す。

◆　計画の立案を通して、実践の場面や方法についての見通しをもつ　◆

教師は、子どもたちの教育に直接携わっており、一人一人の発達の実情を十分考慮できる立場にあります。計画の作成に教職員が協力して当たることによって、児童にどのような能力・態度を育成しようとしているのか、自分が行っている教育活動は全体の中でどのような意義をもつのかということを、より明確に意識することができます。

また、計画は１年間ですべてを整えようとするのではなく、実践しながら数年かけて整備していくことで、児童の実態や指導の状況に即した実効性の高いものになっていきます。重要なのは、計画を作成する過程で、教職員が学校全体で児童の発達を支援していくという共通の認識をもち、指導を充実させていくことです。

ここでは、総合的な学習の時間の見直しから始め、キャリア教育と関連の深い学習内容を洗い出し整理するなどして計画を作成していく場合を想定し、計画立案のポイントについて、例を示しながら解説します。

各学校で定めた目標・内容（育てる力）とキャリア教育で求めている力（例えば「４能力領域」）との関連を整理する。

●育成を目指す力の明確化

自校の総合的な学習の時間で身に付けさせたい力と、キャリア教育に関わる能力との対応が分かるよう整理した例

総合的な学習の時間で身に付けさせたい力		総合的な学習の時間で身に付けさせたい力の具体的な内容	キャリア教育に関わる能力			
			人間関係形成能力	情報活用能力	将来設計能力	意思決定能力
問題を解決する力	感じる力	感動する　共感する　こだわる	◎			
	課題を見つける	興味をもつ　疑問をもつ　課題を選ぶ			○	◎
	調べる	計画する　必要なものを探す		◎		
	考察する	わけを考える　関連付ける				◎
表現する力	情報をまとめる	表現方法を選ぶ　整理する		◎		
	発表する	説明する		◎		
ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの力	人とかかわる	聞き取れる　話し合える　よさに気付く 認める　思いやる　礼儀正しく振る舞える	◎			
	相手に伝える	考えを言う　アピールする　説得する	◎			
自分の生き方を考える力	自分を見つめる	振り返る　よさに気付く　自分の考えがどう 変わったか気付く　改善点を見つける	○		◎	
	思いや願いを実現する	チャレンジする　粘り強く取り組む 学んだことを生かす　将来への希望をもつ			◎	○

この例では、キャリア教育に関わる４能力領域の項目を横軸にとり、自校で設定している児童に身に付けさせたい力が主にどの項目と関連があるのかを確認できるようにしています。

身に付けさせたい力とキャリア教育の4能力領域との関連を整理する意義

- ○　関連を整理する作業を通して、キャリア教育の4能力領域への理解が深まる。
- ○　自校の総合的な学習の時間で身に付けさせたい力とキャリア教育で目指す能力･態度は深くかかわっていることがはっきりする。

発達段階や児童の実態を踏まえ、単元の目標や活動内容、指導について、各学年で検討する。

●単元計画の検討(各学年)

キャリア教育の視点から、目標や学習活動、支援等について検討し、必要と思われる事項を総合的な学習の時間の単元計画に書き加えた例　　※下線（＿＿）で示した部分が加筆箇所

従来の目標をキャリア教育の視点でとらえ直し、育成を目指す能力･態度との関連が分かるように示しています。

5年	単元名　　稲を育てよう	4～7月	45 時間
単元のねらい	○ 田の様子や稲の成長、稲作の作業や工夫について関心をもち、自分の学習問題の解決に向けて意欲的に調べ、考え、表現しようとする。(関心･意欲･態度) ○ 調べ方や記録の仕方を工夫しながら問題解決に必要な情報集め、田の様子や稲の生長、稲作の作業や工夫について分かったことや考えたことを分かりやすくまとめて発表することができる。(学び方) ○ 地域の米作りや環境に関心をもち、自分の生活とのつながりを意識しながら追究するとともに、活動を通してふれ合った人に積極的に学んだり、友達の考えや活動のよさに気付いたりすることができる。(生き方)		
身に付けさせたい力	○ 興味をもったことや疑問を出し合い、話し合う中で、自分の課題と活動の目的を明確にしていく。(コミュニケーションの力) **【人間関係形成能力】** ○ 田の様子や稲の成長、稲作の作業や工夫について調べ、必要な情報を収集することができる。(問題を解決する力) **観察したり農家の人に聞いたりして、** **【情報活用能力】** ○ カメラやビデオなどの機器も活用しながら、追究の過程がわかるように記録し、目的に応じた効果的なまとめ方や表現を工夫することができる。(表現する力) **【情報活用能力】** ○ 地域の田や米作りにも目を向け、調査や聞き取り、体験や観察など具体的な活動を通して、米と自分とのつながりを意識した課題追究ができる。(自分の生き方を考える力) **【将来設計能力】**		
学習過程	予想される主な活動内容	○主な支援 ◇評価【育成を目指す能力･態度】	( )関連教科等 ＊地域教材
つかむ(8)	○ 昨年の田植と稲刈りの体験を振り返り、米作りについての感想や興味をカードにまとめる。 ○ 米や田について知りたいことやチャレンジタイムでしてみたいことを発表する。 ・ 稲の育て方や作業を知りたい。 ・ 米の種類や産地、米を使った料理や製品にどんなものがあるか。	○ 体験、経験、関心から、米や田について知りたいこと、興味のあることを出し合い、それら整理することで、いろいろな視点で追究できることに気付かせる。 **◇昨年収穫した稲の観察や米の試食、写真やＶＴＲ等を参考にしながら、稲や米、田の様子や生き物について知りたいこと、米作りをする過程で調べたいことなどを見つけ、理由と併せて書いている。【情報活用能力】** ○ 出された疑問や興味のあることを書き出し、関連する内容をまとめていくつかのテーマに分類する。児童が自分の関心や興味をもとにテーマを選択し、追究を深めたり広げたりしていく参考になるように一覧表にする。	＊地域の水田や用水路 ＊農家の人 (理) 植物の発芽と生長 (社) わたしたちのくらしを支える食糧生産

児童の実態を踏まえ、キャリア教育の視点を加味しながら単元のねらいや身に付けさせたい力について検討し、書き加えてあります。

キャリア教育の視点で単元の目標や活動を見直す意義

○ **単元のねらいや育成を目指す能力･態度について確認できる。**

○ **育成を目指す能力･態度が明確になることで、具体的な指導や支援の手立てを講じることが可能になる。**

他の教育活動（教科、道徳、特別活動等）との関連や学年間のつながりについて検討し、重複または不十分な点を明らかにする。

● 年間指導計画、内容の系統性の検討

学年ごとに、キャリア教育と関連の深い内容を整理した例

第５学年　年間指導計画

月	学級活動	道徳	教科	総合的な学習の時間	その他の教育活動
4	5年生になって 学級目標を決めよう	4(1)責任をもって	(社) 米づくりのさかんな地域 (国) 依頼･お礼の手紙	○小ファーム	1年生を迎える会 委員会活動
5		2 (3) 友の肖像画			緑化･栽培活動

重点を置く内容を選んで示したものです。どの教育活動を、どの時期に取り上げるかは、学校の実情によって異なりますが、キャリア教育と関連の深い内容を確認し、年間の見通しをもつ上で参考になります。この例では、地域との連携を生かしながら自己理解を深める内容を中心に取り上げています。

育成を目指す能力・態度の観点から、関連の深い学習内容を学年ごとに整理した例

	身に付けさせたい力	低学年		中学年		高学年	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
人間関係形成能力	自他の理解能力	友だちと仲良く遊び、助け合う		自分や友だちのよいところを認め励まし合う		話し合いに積極的に参加し、友だちの意見も理解しようとする	
		○学級活動「基本的な生活習慣」 ○道徳「思いやり･親切」 ○生活科 「ともだち」　「大きくなったよ」		○学級活動「望ましい人間関係」 ○総合的な学習の時間		○学級活動「望ましい人間関係」 ○道徳　「個性の伸長･向上心」	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	あいさつや返事をする 自分の考えをみんなの前で話す		自分の考えを分かりやすく話す 友だちと協力して取り組む		異年齢集団の活動に進んで参加し、役割や責任を果たそうとする	
		○1分間スピーチ ○国語科「聞く･話す」 ○生活科 「学校たんけん」　「町たんけん」				○児童会活動	

身に付けさせたい力については、p. 74、75 の表にある育成すべき能力や態度及び具体例などを参考にして検討するとよいでしょう。

この例では、育成を目指す能力と関連の深い内容を配置しています。学年間の接続や系統性を考慮することによって、発達段階に応じた教育活動の展開や指導の重点が明確になります。

キャリア教育との関連が深い内容の一覧を作成する意義

○　各学年で育成を目指す能力･態度、重点をおいて指導する内容が確認できる。

○　どの学年でも共通に指導すべき内容や発達段階を踏まえた教育活動のねらいを意識し、全体的な見通しをもつことができる。

６年間一貫した教育課程として、効果的に教育活動が行えるよう、学校としての全体計画を構想する。

●全体計画の構想

キャリア教育の全体計画を新たに作成することも考えられますが、ここでは、自校の教育課程の全体計画についてキャリア教育の視点で見直し、教科等のねらいや指導の重点が明確になるようにした例を示します。
特に決められた様式はないので、先行事例や自校の総合的な学習の時間の全体計画などを参考にするのもよいでしょう。

キャリア教育を中核に置いて教育課程の全体計画を見直した例

教育課程の全体計画

・日本国憲法
・教育基本法
・学習指導要領
・とちぎ教育振興ﾋﾞｼﾞｮﾝ（二期計画）
・市町村教育方針

学校教育目標（具体目標）
・健康で根気強い子ども
・進んで学びよく考える子ども
・心豊かで思いやりのある子ども

目指す児童像
・自分を好きといえる子ども
・めあてをもち、進んで取り組む子ども
・ともに学び、高め合う子ども

・学校や児童の実態
・家庭や地域の実態
・社会の状況
・教師、児童、保護者の願い

キャリア教育で目指す児童像 ： 夢や目標をもち、学び合う中で、自分を拓く子ども

キャリア教育で育成を目指す能力や態度を目標として位置付けます。

各学年の重点目標

【低学年】	【中学年】	【高学年】
できることを見つけて進んで役割を果たし、自分の思いを表現する。	積極的に役割を果たし、夢や目標をもち、努力する。	立場や役割を理解して主体的に取り組み、自分の将来を考え、夢や目標の実現に向けて努力する。

【道徳】	【教科】	【特別活動】
自分を見つめ、思いやりの心を・・・	友達とともに学ぶ楽しさを実感しながら、進んで・・・	望ましい集団活動を通して、主体的に、よりよい生活を・・・

【総合的な学習の時間】
地域の人やものに学びながら、問題の解決や探究活動に主体的に取り組み、
・・・・・・自分の生き方を考えることができる。

各教科、領域等のそれぞれの目標を確認し、児童の実態を踏まえて指導の重点を明確にします。

≪学校教育目標の具現化に向けた学校経営と学年・学級経営≫
・児童理解に基づいた学習指導及び児童指導の充実
・基礎・基本の明確化、教材、指導方法、評価の工夫

家庭、地域との連携
情報の共有、教育資源の活用

幼稚園・保育所、中学校との連携
学びの連続、情報の共有、交流活動

長期的な見通しをもち、幼稚園や中学校、家庭や地域と連携しながら、子どもの発達を支援していくことが大切です。

全体計画を作成する意義

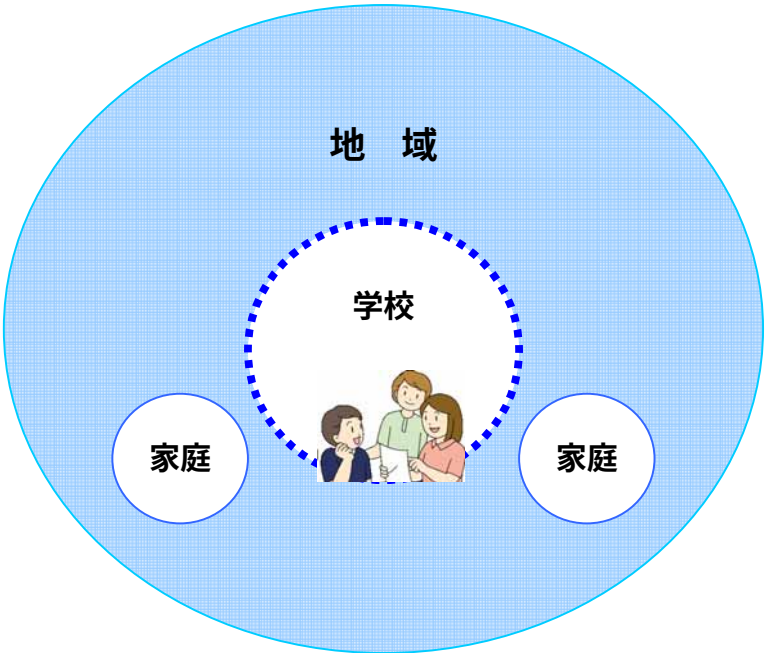
○ **自校の教育課程の全体的な設計やキャリア教育の位置付けが明確になる。**
○ **各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間について、それぞれの役割や指導の重点が確認できる。**

Q10　家庭や地域とどのように連携してキャリア教育に取り組んでいくとよいのですか？

A10　**「学校だけでなく地域全体で子どもを育てる社会づくりにつなげていく」という考え方に立ち、地域に開かれた学校教育を行っていくことが大切です。**

■　学校、家庭、地域、それぞれの取組や子どもの姿について情報を共有し、双方向の意見交換や協働ができる関係を築いていくようにします。

■　児童が保護者や地域の大人から学ぶ場や機会を積極的に設けます。



人と情報を生かす

保護者や地域住民の協力を得ることによって、様々な職業があることを知ったり、多様な考え方や生き方に触れて自己を見つめたりする機会が増えます。各学校で既に行っている、保護者や地域住民の教育活動への参加、家庭や地域への情報提供などの方法や内容について、保護者や地域住民などの意見も聞きながら再検討し充実させていきましょう。学校、家庭、地域が連携して、児童のキャリア発達を支援していくことが大切です。

解説 10　　家庭や地域との連携を深める

子どもたちは、場面や場所、時間や相手との関係に応じてさまざまな顔や姿を見せます。教職員、保護者、それぞれが知っている子どもの姿をつき合わせ、その子どもの等身大の姿を描くことが必要です。学校、家庭が担う役割を確認し、それぞれが責任をもって子どもの成長にかかわっていくという関係をつくり、機能させていくことが大切です。

家庭や地域との連携を深めるアイデア

情報を共有し、理解を深める

《　学校便りや学級通信、保護者会や家庭訪問、連絡帳　などで　》

- 指導の重点や学校の取組について説明する。
- 日頃の学級や児童の様子、担任の考えなどを保護者に伝える。
- 「働くこと」や「学ぶこと」について家庭でも話す機会がもてるよう情報を提供したり働きかけたりする。
- 連絡帳のやりとりなどを通して、日頃から保護者とのコミュニケーションを図る。

保護者や地域の人などを学校に招いて
《　参観日、学校開放　などの機会に　》

- 授業や活動を見て、教育内容や児童の様子を知ってもらう。
- 授業や活動に参加し、一緒に考えたり、経験を話したりしてもらう。

大人とかかわる機会を生かす

体験の場を広げる

児童と教師が地域に出て
《　町たんけん、見学、栽培活動、社会体験　などを通して　》

- 働いている人や利用している人を観察したり、取材したりする。
- 一緒に活動や作業をする中で、話をしたり、教えてもらったりする。
- 感謝の気持ちを伝える。
  お礼の言葉や態度、手紙、あいさつ、清掃など

ここでは、学校の取組を家庭や地域に伝える際のポイントについて、例を示しながら解説します。これまでに発行してきた学校便りの内容を再検討し、家庭や地域との連携を深める手段として効果的に活用するための参考にしてください。

児童や参観者の感想を紹介しながら、運動会における児童の姿を通して学校の取組を伝え、教育活動についての理解を図っている例

○○小　学校便り　輝き　　No 10

○○小学校
平成○年○月○日

みんなで創った運動会　一人一人が輝いていました

○月○日、前日までの天候を吹き飛ばすかのような晴天の下、○○小大運動会が行われました。夏休みが明けて２週間という短い期間で運動会を迎えましたが、子どもたちの演技や競技には、それを感じさせない力強さがありました。各学年とも４月から積み上げてきた様々な力が凝縮された結果ではないかと思います。

写真
（運動会の様子）

☆　一人一人が輝いた　演技　☆

練習での話の聞き方や取り組む姿勢には「うまくなりたい。みんなでいい演技をしたい」という気持ちが溢れていました。休み時間にも子どもたち同士で教えあっている姿が見られ、家で何度も練習してくる子も多かったようです。一つのことをしっかりやり遂げようとする姿勢や、みんなで支えあい、よりよいものを創っていこうとする姿が随所に見られました。

☆　6年生が中心になって　☆

６年生の働きは、運動会を支える大きな力です。様々な役割を担い、知恵と力を出し合って準備を進め、当日も、低学年の面倒を見て一緒になって応援したり、やさしく声をかけたりしていました。また、日頃から委員会などで活動をともにしている5年生との協力もよく、お互いに声をかけ合い「中心になって運動会を成功させるんだ」という一つの目的に向かう姿が輝いていました。

活動や役割の経験を通して、新たな人間関係を築いたり力を発揮したりしている児童の姿をとらえて伝えています。

◆・・・児童の感想から・・・◆

運動会では、布を使った演技をしました。休み時間も友達と練習して、「いい演技をするぞ」とがんばりました。布を大きく回すところや動きを合わせるのがむずしかったけれど、一生けんめい練習して、本番で成功しました。うれしかったです。
４年　○○○○

私は、初めて用具係になったけれど、自分の仕事をしっかりできたと思います。縄やカラーコーンなどを素早く運んで準備したり片付けたりするのは大変でした。でも、みんなにがんばってもらいたいと思って運ぶと、自分の気持ちが伝わったような気がしてうれしかったです。
５年　○○○○

たてわりのみんなとは、練習などを通してとても仲良くなれました。ふつうに会話ができるようになり、１年生も気軽に話しかけてくれます。５年生とも、係の仕事をしながら話をしたりして協力して活動できました。来年の運動会でも、みんなにがんばってもらいたいです。
６年　○○○○

◆　保護者や地域の方々の声　◆

短い準備期間で、子どもたちがあれだけのものを完成させたことは驚きでした。上級生がしっかり活動している姿を見て下級生は成長していくと思うので、５・６年生の動きがてきぱきしていてよいのは、これからの○○小で大切なことと思いました。
４年生　保護者

先生方やお手伝いの保護者の皆様の連携やきちんとした準備で、スムースに運動会が進行したことは本当にすばらしいと思いました。子どもたちも、お互いに助け合い、自分が今しなければならないことを理解して、自ら行動できていたと思います。すがすがしい気落ちになりました。ありがとうございました。
地域ボランティア

保護者や地域の方々の声を掲載し、保護者の感想と共に、読み聞かせや地域安全ボランティアなど、普段から協力いただいている方の視点も大切にしています。

保護者や地域の方々に支えられて

「みんなで創る運動会」ということで、保護者や地域の皆様にも多大なご協力をいただきました。子どもたちへの温かい声援、競技への参加、そして、準備や片づけまで、たくさんの方々にご協力いただき、本当にありがとうございました。今年も、保護者や地域の方々と一緒になって運動会を創ることができたのではないかと思います。これからも、○○小学校が地域に開かれた学校として様々な教育活動を行っていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いします。

学校、家庭、地域が一体となって取り組む姿勢を示し、活動の様子や児童の姿を報告することが、学校教育への理解につながります。

子どもたちの頑張りに対する多くのお褒めの言葉をいただく中で、ゴールや退場門付近でのビデオ撮影、参観者のマナー等の問題点の指摘もありました。また、「テントの位置を移し、保護者席を正面にしてほしい。」「ベランダを保護者席として開放してほしい。」等のご要望をいただきました。しかし、現状では、運営面や安全面、警備上の問題を考慮すると難しいと考えます。「運動会の時期が早すぎるのでは」というご意見や参観者のマナー等の問題につきましては、来年度の課題として検討してまいります。

保護者の意見や要望に対しては、現状を説明し、今後の取組や改善の方針を示します。

ポイント

- ○　**児童の姿や成長を伝える。（活動の様子や児童の感想、発揮された力や学んだこと）**
- ○　**評価を行い、今後の取組や改善の方針を示す。（成果、課題、方策）**

学校評価アンケートによる保護者や地域住民の意見等を踏まえて、学校としての今後の取組の重点を伝えている例

○○小　学校便り　輝き　　No 11　　○○小学校　平成○年○月○日

よりよい学校づくりを進めるために― 学校評価の結果を踏まえて ―

７月に実施した「学校評価」アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの回収率は 95%を超えました。多くの保護者の方々の「思い」が寄せられた今回の結果をしっかり受け止め、よりよい学校づくりに努めてまいります。

今月は、集計結果及び今後重点的に取り組んでいくことについてお知らせします。今後も学校評価を継続して実施してまいりますので、形式や内容等について改善を加えたほうがよい点がありましたら、ぜひご意見をお寄せください。

《集計結果》　A そう思う　B ややそう思う　C あまりそう思わない　D そう思わない　※わからない　(単位%)

	内容	A	B	C	D	※
1	お子さんは学校へ行くのを楽しみにしていますか	96	3	1	0	0
2	お子さんは家族や近所の人に進んで挨拶しますか	84	12	2	0	0
3	お子さんは家でも学習をしていますか	88	7	4	1	0

学校評価の結果を踏まえて、改善すべきことを教職員で話し合い、次の３点について重点を置いて取り組むことになりました。

今後の方針についてご理解いただき、今後もご協力をよろしくお願いします。

今後の取組の重点

Ⅰ 自分の考えを表現する力をつける

授業や生活の様々な場面において、コミュニケーション能力の育成に力を入れています。まず二人組で対話をする経験を十分に積み、話を聞いてもらう心地よさや、相手と話すことの楽しさを実感させ、「安心して話せる関係をつくる」ことを大切にしています。今後さらに、話し方のスキルとあわせて、「あなたはどう思う」「どうしてそう思うの」「どうするの」と子どもに問いかけるなどして、自分の考えを明らかにすることを働きかけていきます。

Ⅱ 相手とのかかわりを考えて行動できるようにする

本校では、「誰もが安心して過ごせる学校」を目標に、「協力・感動・集団」の視点を大切に教育活動に取り組んでいます。これまでの取組を継続していくとともに、子どもたち一人一人に、「どのようなかかわり方をしてもらうとうれしいか」を自分に置き換えて考えさせたり、相手にも自分にもよりよい選択をしようとする場を多く経験させたりして、多様な他者と適切にかかわる力の育成に努めます。

Ⅲ 子どもをよく知る

評価結果を受け、「児童とのかかわり」について職員で話し合いました。子ども一人一人に気を配り、理解に努め、かかわり続けていくことの大切さを再認識しました。保護者の皆様にも、家庭で学校のことを話題にするなどして、親子で話す場や時間を大切にしていただければと思います。学校、家庭、地域、それぞれの場での子どもの姿を知り、連携を密にして、子どもたちの成長を支援していきたいと考えています。

学校評価アンケートに寄せられた保護者の意見や評価結果を踏まえて、これまでの取組を伝え、さらに充実・改善を図ることを、具体的な方針と併せて示しています。

取組の成果と課題については、こうした資料を配布したりホームページで発信したりするとともに、学年や学級の実態や具体策をまとめ、保護者会などの機会に担任が説明を加えることが大切です。

ポイント

- ○ **学校の教育方針や教育活動、取組の状況や児童の様子を知らせる。**
- ○ **学年や学級の児童の様子、指導の重点や具体策などについて、保護者会等で説明する。**

連携のためには、教職員、保護者、地域住民が、「子どもの発達・成長を支援する」という目的を共有し、相互理解を図っていくことが重要です。保護者や地域住民が、実際に子どもを目の前にして学校教育活動にかかわることによって、「学校に協力する」という意識から、次第に「参画する」という意識に高まっていくものと思われます。地域の実態に合う連携を模索し、機能させていくことが大切です。

地域の大人が子どもにかかわる機会を設ける

家族や教職員以外の大人に指導されたり、コミュニケーションをとりながら一緒に活動したりする経験は、社会性を育む上でとても重要です。多様な人々とかかわることによって、自分と異なる見方や考え方をする人がいることに気付き、そのような人たちとも一緒に活動する楽しさやよさを味わうことができます。具体的な活動を通して、自分の生活を支えている人に目を向け、自分との関係について考えたり、適切な接し方を学んだりするよい機会でもあります。

総合的な学習の時間や特別活動、各教科、あるいは、文化祭やふるさと学級など、様々な場面で既に行っている活動の目的と成果を確認し、児童にとってどのような意味があるのかを十分に吟味して、効果的に実施しましょう。社会の中で様々な経験と見識を培ってきた大人たちと直接かかわることによって、子どもたちの学びはより豊かなものになっていきます。

キャリア教育に関する資料

ここでは、本冊子作成のために、引用または参考にした資料について、コメントを付記して紹介します。あわせて、「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」より、キャリア教育の推進に係る県の施策の概要を紹介します。

1『キャリアの推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』

文部科学省（平成 16 年1月）

文部科学省が、初等中等教育における「キャリア教育」を推進していくための基本的な方向などについて検討して、学校や教育関係者などにおける「キャリア教育」推進の指針となる提言をまとめたものです。

○（本文）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801/002.htm
○（骨子）http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm
○（リーフレット）http://www. mext.go.jp/a_menu/shotou/career/04111901.htm

2 『小学校・中学校・高等学校　キャリア教育推進の手引 －児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために－』

文部科学省（平成 18 年 11 月）

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」の内容を、より分かりやすく解説したものです。学校におけるキャリア教育の理解を図るために、キャリア教育の意義、学校における推進の手順、各学校段階におけるキャリア教育の進め方などについて示しています。

○ http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/06122006.htm

〈参 照〉文部科学省＞進路指導･ｷｬﾘｱ教育　http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm

3 『キャリア教育入門　その理論と実践のために』

三村隆男：著　出版社：実業之日本社（平成 16 年９月）

キャリア教育の歴史、理論的背景そして進路指導とのかかわり、さらには学校現場でのキャリア教育の立ち上げ方から具体的な実践事例、授業展開例などを掲載しています。

4 『図解　はじめる小学校キャリア教育』

三村隆男：編 出版社：実業之日本社（平成 16 年 11 月）

小学校段階のキャリア教育を実践するための手引きです。各校で教科、道徳、特活、生活科・総合などを通して地道に取り組まれている実践をもとに、子どもたちの能力や態度を少しずつ引き出し、生きる姿勢を育む考え方が具体的に紹介されています。

5 『小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案』

児島邦宏・三村隆男：編　出版社：明治図書（2006 年３月）

教科・領域を軸にした小学校におけるキャリア教育のカリキュラムを具体化し、国語、理科、道徳、特別活動、生活科・総合的な学習の時間、それぞれについてカリキュラム及び授業展開案例が掲載されています。

■ 「とちぎ教育振興ビジョン（二期計画）」より抜粋

栃木県教育委員会

○ http://www.pref.tochigi.jp/kyouiku/nextvision/index0.html

第2部　各論

第1章　自立する力と豊かな心をはぐくむ学校教育の実現

■　自立意欲と社会性の育成

若者の就労形態をみると、フリーターやニートの増加、高水準で推移する早期離職率等の問題があり、適切な対応が喫緊の課題となっています。その原因としては、求人の減少や求職と求人の不適合の拡大、雇用環境の変化などがある一方、若者の職業に対する意識や価値観の多様化、勤労観、職業観の未成熟、進路決定を先送りする傾向などや、人間関係を築く力などの社会性が育っていないことも、原因として指摘されています。

このようなことから、学校教育においては、児童生徒一人一人に、発達段階に応じた望ましい勤労観、職業観を育てるキャリア教育の推進が求められています。さらに、キャリア教育の視点から主体的に進路を選択決定する能力や態度を育成する進路指導の充実も必要です。

また、社会性の育成を図るため、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動や、学級及び異年齢の集団活動を通して、友達や様々な立場の人々と積極的にかかわる体験を充実させます。特に特別活動では、目標に「集団の一員としての自覚を深め」「協力してよりよい生活を築こうとする」とあるように、社会性の育成をねらいとしています。考え方や性格、体力や能力が異なる子どもたちが折り合いをつけながら共に生活する、「学校ならではの学びの体験」を重視していきます。

（1）キャリア教育の充実

社会人・職業人として自立に必要な意欲や態度、能力を育成します

児童生徒の発達段階に応じ、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間において、勤労意欲の醸成や、社会人・職業人として自立していくために必要な能力や態度を育成します。

さらに、学んだ知識をより確かなものとするために、職業に関して専門的知識や技能をもつ民間人等を活用した授業、奉仕活動や職場体験などの実体験の機会を拡充します。

また、各学校が組織的・系統的にキャリア教育を推進できるようにするため、小・中・高校の発達段階に応じた一貫性のある学習プログラムを開発し、普及していきます。

［ 推進の柱となる事業 ］

・地域の人材活用の推進　　・職場体験の推進
・ジュニア・キャリアアドバイザー事業
・勤労観・職業観を育成する学習プログラムの開発・普及

（2）進路指導の充実

自分の意志と責任で、進路を選択・決定する能力や態度を身に付けさせます

各教科における学習指導や総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動全体を通じて、生徒が自らの在り方生き方を考え、主体的に進路を選択し、その目標に向かって努力していけるよう、各学校においては、本人や保護者に対するガイダンス機能の充実を図るとともに、職場体験の機会の確保や企業訪問、上級学校訪問などを実施し、生徒の進路意識を啓発します。

また、教職員全体の共通理解と協力体制により、計画的・組織的に進路指導を行うだけでなく、中・高の連携を密にし、連続性・一貫性のある進路指導の充実を目指します。

［ 推進の柱となる事業 ］

・中・高進路指導連絡協議会　　・県立高校ガイダンス事業
・進路指導連絡協議会

（3）社会性を育てる指導の充実

社会生活を営む上での基礎を身に付けさせます

社会性は集団生活の中で育てられます。したがって、集団活動の場で自分の役割や責任を果たす、互いのよさを認め合う、他者と協力して集団に関わる諸問題を話し合う、集団のためになる最良の解決策について思考判断するといった活動を重視します。特に、学級活動（ホームルーム活動）などにおける集団決定の場面や、学校行事や生徒会活動などにおける、集団（同学年・異学年）内での役割や責任を果たす場面の指導を大切にし、一人一人が集団に所属することのよさを実感できるようにします。

また、社会体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動の一層の充実を図り、あいさつや礼儀作法など社会の一員としての基本となることや共に生きる心、感謝の心などを育むとともに、主体的に自己の在り方や生き方を見つめさせます。

さらに、学校教育の様々な機会を通して、お互いの考えや気持ちを伝え合う力を高め、生活上における問題を言葉で解決する力を育てるとともに、児童生徒が相互理解や望ましい人間関係づくりを進めるためのカリキュラム等の在り方について調査研究を行い、その研究の成果を県内全域に普及・啓発します。

［ 推進の柱となる事業 ］

・伝え合う力を養う調査研究
・キャリア教育実践プロジェクト事業（キャリア・スタート・ウィーク）

○ 勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み（例） － 職業的（進路）発達にかかわる諸能力の育成の視点から

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の勤労観や職業観を育む教育の推進について（調査研究報告書．平成14年11月）」より

			小学校		
			低学年	中学年	高学年
職業的（進路）発達課題			進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期		
○職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成		
職業的（進路）発達に関わる能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	**【自他の理解能力】** 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 友達と仲良く遊び、助け合う。 お世話になった人などに感謝し親切にする。	自分のよいところを見付ける。 友達のよいところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に感謝する。	自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	あいさつや返事をする。 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 自分の考えをみんなの前で話す。	自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 友達の気持ちや考えを理解しようとする。 友達と協力して、学習や活動に取り組む。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 **異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。**
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	**【情報収集・探索能力】** 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	**身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。**	**いろいろな職業や生き方があることが分かる。** 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	**身近な産業・産業の様子やその変化が分かる。** **自分に必要な情報を探す。** 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	**係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。**	**係や当番活動に積極的に関わる。** **働くことの楽しさが分かる。**	**施設・職場見学等を通し、働くことの大切さや苦労が分かる。** **学んだり体験したりしたことと、生活や職業との関連を考える。**
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	**【役割把握・認識能力】** 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	**家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。**	**互いの役割や役割分担の必要性が分かる。** **日常の生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。**	**社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。** **仕事における役割の関連性や変化に気付く。**
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	**作業の準備や片付けをする。** **決められた時間やきまりを守ろうとする。**	**将来の夢や希望を持つ。** **計画づくりの必要性に気付き、作業の手順が分かる。** 学習等の計画を立てる。	**将来のことを考える大切さが分かる。** **憧れとする職業を持ち、今、しなければならないことを考える。**
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	**【選択能力】** 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	**自分の好きなもの、大切なものを持つ。** 学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	**自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。** してはいけないことが分かり、自制する。	**係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。** 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	**自分のことは自分で行おうとする。**	**自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。** **自分の力で課題を解決しようと努力する。**	生活や学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。 **将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。**

参考

＊ 太字は、「勤労観や職業観の育成」との関連が強いものを示す

			中学校	高等学校
職業的（進路）発達課題			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階） 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観や職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
職業的（進路）発達に関わる能力			職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
領域	領域説明	能力説明		
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	**【自他の理解能力】** 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	**自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。** 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 自分の悩みを話せる人を持つ。	**自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。** 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	**他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。** **人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。** **リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。** 新しい環境や人間関係に適応する。	自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 **異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。** **リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。** 新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	**【情報収集・探索能力】** 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	**産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。** **上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。** **生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。** 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	**卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。** 就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。 **職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。** 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力	**将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。** **体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。** 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	**就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。** **社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。** **多様な勤労観や職業観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。**
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	**【役割把握・認識能力】** 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	**自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。** **日常の生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。** **様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。**	**学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。** **ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。** **将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。**
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	**将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。** **進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。** **将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。**	**生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。** **職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。** **将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。**
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	**【選択能力】** 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	**自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。** **選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。** 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	**選択の基準となる自分なりの価値観、勤労観や職業観を持つ。** **多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。** **進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。** **選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。**
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 **よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見い出していくことの大切さを理解する。** **課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。**	**将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。** **自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。** 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。

キャリア教育に関する参考資料（小学校編）

「生きる力」を育むキャリア教育
－ 小学校における理解と実践のためのＱ＆Ａ －

発　行　　平成19年3月
栃木県総合教育センター　研究調査部
〒320-0002　栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7204　　FAX 028-665-7303
URL http://www.tochigi-c.ed.jp